



のブリッジ余談 (第 82 回)

アラートへのアラート (警告)

2016.4.15

ある日のゲームでオポーネントから詰問されます

「これにはアラートがあるのですか？ ないのですか？」

答えます

「約束がないのでアラートできません」

「ではナチュラルですね」

「そうは言ってません」

「それでは困ります」

別な日には

ダミーが空いて

「あら……はナチュラルでなかったのですね、アラートしてくれなくては困ります」

「……」

また別な日に

やはりダミーが空いて

「スペードがあるのにNTビッドをしたのですね。アラートしてくれないと困ります」

「……」

よくある会話です。でもなんかおかしいですね！ 何がおかしいのでしょうか？

まず質問している人は、アラートがないとすべてナチュラルなビッドだと決めつけている

=アーティフィシャルなビッドはすべてアラートされると理解しているようです。

また実際のハンドがビッドと違っていたときにもアラートがなかったと文句をつけてきます。そもそもビッドはハンドを正しく表現するビッドをしなければいけないという規則はありません。好きにビッドして良いのです。いけないのは、どのようにはずれるか自分たちだけの秘密の約束事があってはいけないのです。

ビッドにおいて、普通の人にとってすべてのシーケンスに事前に了解をしておくことは不可能です。約束していなかったシーケンスが出てくることはごく普通のことです。これはアラートのしようがありません。仮にアラートしても説明を求められて答えようがありません。「……かも知れないし、……かも知れないし、何か分かりません」としか答えようがないこととなります。さらに「どちらかに決めてください」とまで言われかねません。

ビッドにおいては、オポーネント間の了解事項だけを聞く権利があり、何を考えたかを聞く権利はありませんし、答える必要もありません。だから「……と思います」と答えてはいけないのです。パートナーへの違法な情報提供になります。

ビッドにおいて相手に説明を聞くことのできることは相手の了解事項だけであることを

くれぐれも忘れないようにしてください。実際にどのようにビッドするかは相手の勝手です。実際の手とどう違おうとも、また自分と違うことを相手がしても文句をつけてはいけません。

ブリッジ川柳を一句：

“コンベンション アラートがあれば 安心し”

この状況は笑い話としては分かりますが、違法であると肝に命じてください。アラートはオポーネントのためのもので自分たちが利用してはいけないのです。(もちろんストップも同じです。ストップを出すとパートナーにウィークを示すというような使い方をしてはいけません)